

互いに協力し、支え合うまちを目指して

協働のまちづくり

市では、誰もが「住みたい、住んでよかった」と思えるまちづくりを進めるため、「養父市まちづくり基本条例」の理念のもと、地域に関わる皆さんと共に考え、共に取り組む「協働のまちづくり」を進めています。

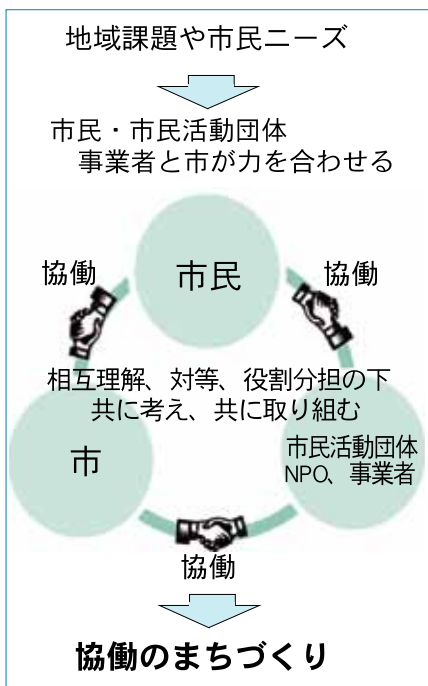
多様化、複雑化した地域課題や市民ニーズに対応し、市だけ、地域だけでは解決できない問題などは、市と皆さんで力を合わせ、知恵を出し合って、共に取り組み解決していくものです。

■協働とは

市民や区、地域自治組織、NPO法人をはじめとする市民活動団体、事業者などの皆さんと市が、お互いの理解と信頼のもと、協力・連携し合い、それぞれの立場でその役割を果たし、一緒になってまちづくりを行っていくことです。

市では、市民の皆さんと連携を深め、身近で取り組みやすい活動を事業化し、市民力を生かした「協働事業」を推進しています。

協働のイメージ図



協働事業の取り組み紹介

移住定住対策

移住定住希望者に対し、きめ細やかな支援を行うため、「田舎暮らし倶楽部(養父市八鹿町高柳)」との協働により移住定住対策に取り組んでいます。

近年、多様化するライフスタイルや価値感の変化から「自然志向」といった田舎での生活が見直されつつあり、U・J・Iターンなど都会から田舎に移り住む人たちが、増えつつあります。

田舎暮らし倶楽部は、このような状況の中、養父市空き家バンク制度と連携し、都市住民と市を結びつける「仲人」役の相談業務を行います。また市の魅力を情報発信し、体験・交流イベントを通じて、人と人との繋がりを高めていく取り組みを市と協働で行います。

■お問い合わせ／市民生活部 市民協働課 (電話 662・7601)

まちの文化財 99

男爵、北垣国道

能座区には、国指定文化財「建屋のヒダリマキガヤ」があります。ここは男爵となつた北垣国道の生家の場所、生誕地になります。

文久3年(一八六三)、北垣国道・平野国臣・南八郎(本名は河上弥一・長州藩奇兵隊長)たちが生野代官所を占領する生野の変(別名・生野義拳)を企てました。しかし、倒幕運動は失敗し、南八郎は切腹しました。

このため、北垣国道も実家のある能座村に帰って、北垣家の墓前で切腹しようとした。しかし、母親に諭され、長州藩へと逃れました。今年、生野の変から150年目にあたります。北垣国道は、当時27歳でした。

北垣国道は、その後も明治維新で活躍し、明治14年、第3代京都府知事に就任しました。伊藤博文や松方正義が、遷都によって衰退した京都



円通寺本堂にある北垣男爵の肖像

を復興するために北垣国道知事を抜擢しました。

北垣知事は、京都に琵琶湖疎水を作り、この水で日本最初の水力発電所を設置、その電気で日本最初の市電を走らせ、京都の復興と近代化を推進しました。

北垣国道の父、康平は、能座村の庄屋を務めた人です。北垣家の菩提寺は能座区の円通寺です。北垣国道のお墓は京都市にあります。円通寺本堂には男爵北垣国道の写真が掲げられています。

北垣国道が青谿書院を飛び出し、生野の変に参画して150年目になります。若き日の志を貫いて男爵となり、明治時代の日本を代表する政治家の一人になりました。(教育委員会社会教育課)